

特 252 4 4 942  
六日 第三種郵便物認可  
日印刷納本(毎月一回)  
行(十五日發行)

# 労働者講座

第三十號

日本發明物語り

民衆の  
ための  
金融制度

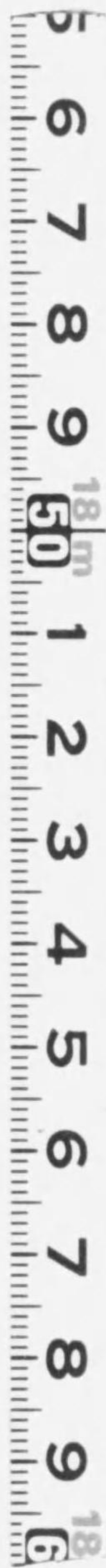
修養講話

生きがひのある一生

小林 一郎

日本労働者教育協會

始





特 252  
942

今こそ勞務者が本當に  
自覺せねばならぬ秋だ

### 本講座は

- 一、健全なる日本國民としての勞務者の教養に必要な一切の知識を網羅する
- 二、最少の經費と時間で最大の効果をあげ得る
- 三、書き方が最も平易簡明で何人にも読みやすく分りやすい
- 四、本邦勞務者教育の中央機關たるべき本協會が責任を以つて編纂したものであるから最も信頼出来る

前號目次

### 憲政運動の話

尊皇敬神の歌人

### 橘曙覽

修養講話——高島平三郎

### 修養の眞意義

前々號目次

我國の工業

トーカーの話

修養講話——

土に親しみての修養

關屋龍吉



國際聯盟問題も行く所まで行つて、我國はいよいよ脱退から名譽の孤立といふ段取りになつた。この後に來るものが何であるか、それはたやすく豫想出來ないが、ともかく日本國民が歴史始まつて此の方出くわした、最大の國難である。

歐米に於ける不況、殊に最近の米國金融界の大恐慌は、益々我國に影響を及ぼして來る。インフレ景氣は今後どう變つて行くだろうか。

問題は次から次へと、吾々の前に現はれてくる。有形無形の敵は今後いよいよ盛んに攻寄せて來るであらう。

「敵多ければ譽多し」だ。吾々は力の續く限り、あらゆる困難と闘はうではないか。そして日本人としての譽を、いやが上にも高めたものである。(あきら生)







# 日本發明物語り

— 目次 —

はしがき

- 一、明治維新以前の我國の發明
- 二、明治維新以後の我國の發明
- 三、明治十八年以後に於ける有名な發明家
  - 一、世界的發明家高峯謙吉博士
  - 二、我國兵器界の恩人男爵村田經芳氏
  - 三、東洋の眞珠王御木本幸吉氏
  - 四、豐田式織機發明者豐田佐吉氏
  - 五、織維工業の革新者坂根清一氏
  - 六、花筵業の恩人磯崎眠龜氏
  - 七、樂器製造界の霸王山葉寅楠氏
  - 八、我國發明界の巨人鈴木藤三郎氏
  - 九、ツキタミンの發明者鈴木梅太郎博士
  - 十、磁石鋼の發明者本田光太郎博士
  - 十一、電氣工業の進歩に貢獻した山本博士と川原田教授

はしがき

今日吾々が、物を食べ、家に住み、着物を着て、毎日を無事に暮して行く事の出来るのは、吾々の先祖が長い間かゝつて、衣食住の方法を工夫して置いてくれたからである。食物を料理したり、家屋を建築したり、衣服を裁縫したりすることは、ある人がある時に偶然考へついたことではなく、幾人もの人が、幾千年もかゝつて出来上つたものである。篝火から電燈へ、丸太から船へと、文化が今日の程度に進歩したのも、みな先祖達の苦心の賜である。

日常の衣食住の生活を始め、いろ／＼さまざまに文化に至るまで、凡て今日のやうに著しく發達したのは、結局、發明発見や工夫考案の結果であり、其れが積り積つて今日の人間生活が出来上つたのである。

世界人類の文化の歴史は、實にかうした吾々の祖先たちの永い間の發明の歴史とも謂ふべきである。

これを思へば、發明考案の偉大な力に驚くと共に、發明家の大きな功績に對して心からの感謝を捧げざるを得ない。

然しながら一つの發明、一つの発見も決して一朝一夕の事柄ではなく、その裏には幾年幾十年の間の血と涙とに滲む艱難苦心が潜んでゐるのである。

勿論發明と言ひ発見といひ、其の人のすぐれた頭の働きに因つて起るものではあるが、矢張り其の不屈不撓の心と、貴い人類への奉仕の精神とがなければ

(米國に於けるすぐれた科學者の生國別)

生國	科學者數	1900年に米國在住の男子數	科一男 卓越した人 對する上 の數
日本	3	28,000	9,300
義耳	1	12,000	10,000
和蘭	4	46,000	10,500
スコットランド	11	116,000	10,550
カナダ	47	505,000	10,700
瑞西	5	63,000	12,600
英及ウエルス	33	463,000	13,000
ロシア(主として猶太人)	11	173,000	15,000

新地理學の泰斗ハンチントン氏(米)の統計表

到底成功するものではない。

我國が徳川三百年の永い鎖國を續けて太平を夢みてゐる間に、歐米諸國では學問はどし／＼進歩し文明は發達し數多の偉人の力に依つて驚くべき發明発見が遂げられた。然しながら元來進取の氣象に富み、研究心に強い我國民は、歐米人に較べて決して劣らない優れた頭腦と、日本人獨特の愛國精神とを以て、明治維新以後、僅か六七十餘年の間に、驚くべき勢で文化を發達させ、産業を發展させ、今や世界列強の間に立つて一等國として押しも押されぬ

程度にまで國家の體面を保つ事が出来た。吾々はこの國民の奮闘努力の中でも、殊に發明家



の苦心を認め、其の勳をたゞへると同時に、其の精神を學び、將來の日本を科學や産業は申すに及ばず、一切の文化に於て、世界に類なきものにまで育て上げねばならないと信するのである。

我國は今や内憂外患の状態である。特に國際關係に於ては誠に憂ふべき立場に在る。將來萬が一に日本が孤立の状態にでも陥つたとしたならば、そんな場合、物資に恵まれない國民は、經濟的にも國防的にも自からの力と意氣とを以て、最大の能率を上げ、同時に國家の永久の基礎を固める覺悟がなくてはならない。これがためには一つには國民の發明考案に對する努力に依らねばならないことは言ふまでもない。

その意味で、この「日本發明物語」が讀者に何らかの暗示と刺戟とを齎すならば、この上もない幸である。

し大體に於て明治維新以前の我國の産業といふものは、貴族や武士階級の便宜といふことを目的として成立ち、殊に武士が勢力を持つやうになつていはゆる封建制度といふ社會の仕組が出来てから各大名は主として、其の領内だけでの經濟的生活を営むやうにし、他の藩や廣く全國との交通、商業を行ふ事を避け、外國に對する關係に至つては殆んど問題にならなかつたから、維新前の我國の産業は、僅かに米を主とした農業以外には發達する餘地がなかつた。工業に於ては殆んど見るべきものがなかつたのである。従つて産業に關する大きな發明なぞの起るわけもなかつた。只貴族階級や武士階級の需める日常生活に用ひる品、武器、裝飾品、其他衣食住に關する物品等の部分的の改良や發明がなされたに過ぎない。

然し其間にも西ヨーロッパ文明の流れは、僅かながらも我國にも輸入されて、種々の影響を及ぼして

## 一、明治維新以前の我國の發明

精神文明の上から言つても物質文明の點から考へても、我國にとつて最も大きな時世の變化を來たしたものは明治維新であるが、元來我國は精神的文明に於ては、一般東洋民族が左様であるやうに、昔から大いに見るべきものがあつたけれど、物質的文明の多くは外國殊にヨーロッパ諸國の眞似から次第に發達したもので、科學思想の比較的貧弱な我國民の手で出來た固有の文明文化と言ふものは少い。然し明治維新以後は諸外國の新しい進んだ文化を採り入れ、又それに刺戟されて、我國獨得の文化を作り出すやうにもなつた。

我國では大昔から奈良朝、藤原時代、鎌倉時代、足利時代、桃山時代と、時代の移り變りに従つて、工業（手工業）や技藝も特殊の發達を遂げたが、然

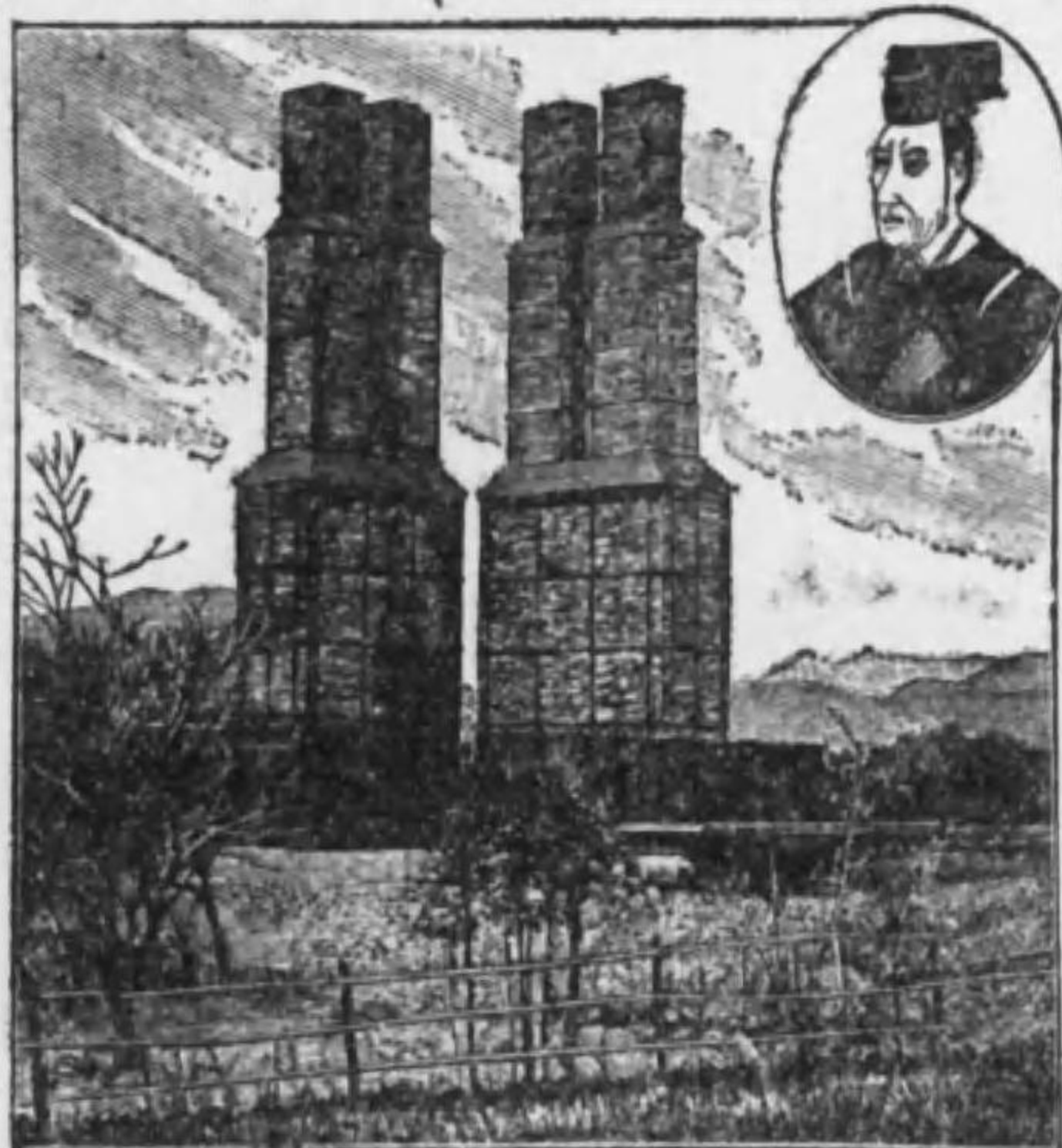
はゐる。

古くは我國は支那朝鮮とも交通して、其の文明のおかけを蒙つたことは非常に多かつたが、降つて足利時代の末、戰國時代が過ぎて桃山時代に入り、日本國民が進んで海外に行つて貿易するやうになつてから、豊臣秀吉の許しを得て南洋方面にまで渡る者も出來て、造船術や航海術も進歩し、それに伴つてヨーロッパの文化も次第に我國に這入つて來たが、寛永十三年徳川三代將軍家光が鎖國を行つてからは外國との交通貿易は全く斷たれ、ヨーロッパ文明との縁も非常に薄くなつた。而して國內では太平に慣れて國民の意氣は振はず、従つて只美術工藝品の發達の外別に目新しいものが出てゐない。

八代將軍吉宗が外國書の輸入を許したり、松平定信がオランダの學問を奨励した事に刺戟されて、キリスト教以外の書籍が盛に翻譯され、従つて醫術、砲術、製紙、印刷等に關する新しい知識が輸入され



た。  
嘉永元年には江川太郎左衛門はオランダの書に依つて製鐵法を學び、四個の反射爐を伊豆の菲山の近郊中村に据えて大砲の鑄造を試みた。又嘉永三年には薩摩の島津齋彬は製鍊所を設けて、藥品、砂糖、金銀の分析等を行ひ、更に反射爐や鑄鐵爐を据えて大砲を鑄造し、陶器、硝子、硫酸農具、造船機械の類まで和蘭式によつて製造した。安政三年には松本弘庵、川本幸民等は洋書に従つて電氣機械の製作に手をつけ、又翌年には石炭瓦斯の製造にも成功してゐる。水戸の徳川齋昭は早くから江戸の石川島に造船所を建てた。このやうにして洋學者



江川太郎左衛門とその建てた反射爐

六  
達は漸次外國の機械工業を我國に移し、これを發達させる事に努力した。當時は單に西歐文化の紹介や試験的の營みに過ぎず、これ等に就ての改良や、それに關係した發明などといふことは勿論不可能であつたが、之等の先見の明のある人達の熱心な研究や倦まざる試みは、どの位我國の産業の發達を刺戟し、國民の發明心を呼び起こすに役立つたかは容易に想像出来る。當時の洋學者達は、國學者や漢學者の舊派からひどく攻撃され、新舊兩思想の衝突は激しくなつたが、折柄偶々嘉永六年に米國のペリリが軍艦を率ゐて浦賀に現はれ、開港貿易を我國に迫つたので、尊王攘夷、佐幕開國の議論が國を擧げて起こり、慶應三年徳川幕府は遂に大政

を奉還して茲に明治維新となつたのである。其の間歐米諸國では、科國の進歩に伴つて各種の發明があり、産業は發達し、文明は非常に進んでゐた。中でも注意すべき事は一七七五年（安永四年、徳川十代將軍家治の時代）には、英國のジェームスワットが蒸汽機關を完成し、機械工業の端緒を開き、全歐洲に有名な産業革命を起こす一の大原動力となつた事である。

## 二、明治維新以後の我國の發明

### 明治初期の發明界

明治の新政府が開かれて、先づ第一に問題となつ



蒸氣機關發明家  
エジソン・ツツワ

七  
たのは、富國強兵の實を擧げる事で、それには先進文明國の文化を採り入れる事であつた。官民一致してこれに當つた爲め、西洋の科學知識は盛んに這入つて來た。舊い制度や風俗習慣は破られ、國民の日常生活の形式や一般の文物も大いに改められ、我工業も機械の輸入に依つて一大變化を來たした。明治四年には既に「專賣略規則」といふものが設けられ、政府は發明を獎勵し産業の開發を圖つた。かやうにして維新後僅かの間に我國の文化は大いに進歩したが、然かしその間には可成りな無理があつた。その爲めに謂はゆる粗製濫造となり、外觀だけをやらに歐米風を眞似る風が出来た。開國當時の日本としては止むを得ない勢



であり、又それが列國の間に伍して行くのに近道であつたかも知れないが、然し一方ではこの外國模倣の精神が、後になつて日本國民の獨創的な發明心を失はせるやうになつた原因でもあるのである。

**織物** 當時西洋文物が輸入されて、先づ影響を受けたのは我國人の服装、持物や室内裝飾品等で、手袋、靴下、洋傘、テーブル掛、敷物等は殊に珍しいものとされた。従つて織物に就ては従來とは事變り紋織機械（ジャカード）や飛梭機械（バツタン）が使用されるやうになり、我國の洋式機業發達の基礎となつた。又紡績糸が輸入されてからは、我國從來の木綿織物に一大影響を與へた。

紀州和歌山の瀬戸重助氏は綿「フランネル」を創製し、泉州堺の藤本庄太郎氏は堺段通を改良し、九州久留米の井上傳女は有名な久留米緋を考案した。

**染色術** 織物に關聯して染色術も大いに進歩した。我國で西洋の化學的染法を最初に傳へたのは京

都の中村喜一郎氏で、同じく廣岡伊兵衛氏は西洋染料を用ひて友禪型染を工夫し、大阪の堀川新三郎氏はモスリン友禪の染法を研究し、遂に明治十二年寫染法を發明した。

**製絲** 明治三年前橋藩で製絲機械を据付けたのが我國に於ける機械製絲の始まりで、洋式撚糸器械は佐野利八氏が明治六年に始めて購入した。これより西洋式機械製絲法や撚糸法は全國に擴まり今日の改良發達の基をなした。

**紡績** 鹿兒島藩は早くから紡績機械を英國から取り寄せ、鹿兒島や泉州堺で紡績工場を経営した。其後洋式機械紡績業は各地に起り、遂に現今のやうに隆盛になつたのである。

**陶磁器** 維新後、有田、瀬戸、九谷等の如き食器類は洋式窯法を應用し、從來の方法を改良し、急に盛となり、殊に美濃焼、砥部焼、會津焼等は長足の進歩をした。

**硝子** 硝子は早くからオランダ人から輸入してゐたが、明治政府は種々研究の結果精巧なものを製造し、後工場を民間に拂下げた。其の後立派な美術品食器、化學用試験管等が考案されて海外にも輸出されるやうになつた。

**銅器、青銅器** は何れも各地で盛に製造され、種工夫を凝らされ、中には外國人の嗜好に適して非常に好評を博したのものもある。

**漆器** 漆は我國特有の産物で、在來は黒、赤、黄、緑の四色に過ぎなかつたが、明治十九年に廣島の田原榮氏は化學的研究の結果在來の漆の外白、青、紫等の色の製出を發明した。

其の他麥稈眞田、煉瓦、土管、セメント、燐寸、印刷紙並印刷術、造船術、建築等の中で、我國在來のものは西洋式の製造方法や技術に改められ、又新しく輸入されたものは漸次改良工夫が加へられて、何れも我國獨得の様式に面目を一新した。

**人力車** は明治二年頃和泉要助外二氏が協力して發明したもので、其後諸外國にまで輸出されるやうになつた。

### 三、明治十八年以後に於ける有名な發明家

明治の初頃は、ひたすら西洋文化の輸入を主としてゐたため、これらを深く研究し、その長所を探り短所を捨て、更に進んで改造し、新に發明にまで進展するといふ餘地はなかつたが、明治十八年頃からやゝ國民の獨創的精神も呼び起こされ、日本人本來の要求に適した新發明新考案が次第に現はれて來るやうになつた。

これは一つには明治十八年に「專賣特許條例」が發布されて我國の特許制度が確立し、各人の發明考案に關する権利が認められ保護された事にも大いに原因してゐるが、又一つには國民の教育が進み科學



智識が向上し、加ふるに日清日露の兩大戦や歐洲戦争に刺戟される所が甚だ多かつたためでもあるといはねばならぬ。

茲では明治十八年以後今日に至る間に於て、最も有名な發明家の歩いて来た苦心奮闘の跡を尋ね、併せて明治中期以後の我國の發明界の狀勢を概略述べる事とする。

### 一、世界的發明家 高峯讓吉博士

世に發明家の數は決して尠くはないが、日本の發明界を代表して歐米に押し出しても尙ほ彼等を驚かすに足る程の大發明家は僅かである。

此の時に當り吾々は先づ有名なタカチアスターゼ



士博吉讓峯高家明發的界世

やアドリナリン等の發見者である工學博士藥學博士高峯讓吉氏を想ひ出さざるを得ない。

高峯博士は安政元年十一月三日、富山縣高岡市に生れた。家は代々醫師で、父元陸氏が金澤の前田候

の御典醫となつて居を金澤に移したので、博士は幼時を此の地で過した。博士は幼兒から化學の研究に非常に趣味を持ち、父の藥局で色々な實驗をすることを無上の樂みとしてゐた。其の後長崎で英語を學び、大阪で醫學校に入學したが中途で退學し、明治七年工部大學（今の東京帝國大學工學部の前身）に入學して應用化學を研究し、優秀な成績で卒業すると間もなく英國に留學し、三ヶ年間に應

用化學の研究に費し、歸朝後農商務省に勤め、專賣特許局長にまで榮進した。然し博士本來の志は、民間に在つて事業を起し自由に其の發明力を發揮するにあつた。

これより先き博士が米國に出張してゐた頃、人造肥料に多大の興味を持ち、歸朝後はいよく之に關する研究を進め、又別に酒の醸造法に就ても大いに改良の餘地のある事を知り、明治廿年に歐米に於ける肥料及び醸造業の調査研究のために外遊し、米國政府からは博士の發明である高峯式醸造法の特許を得た。歸朝後直ちに官職を辭し、東京人造肥料會社（大日本人造肥料株式會社の前身）を創設して技師長となり、傍ら化學研究所を設け、コバルト採收新法、防火塗料等の發明を出した。

博士は其の後米國の醸造會社組合から招かれ高峯式醸造法を用ひ、ウイスキーの原料であるモールトの代りに日本の麴を使つてウイスキーの製造に着手

し、經濟的方面にも製法の上にも、並々ならぬ苦心を重ねて漸く成功したが、不幸にもモールト製造業者の猛烈な迫害を受け、その工場は焼かれ博士の保護者である醸造會社組合の會長は排斥され此の事業は中途で坐折の止むなきに至つた。

其の頃博士は激しい肝臟病に罹り生死の程を危ぶまれてゐたが、その上に事業は失敗し、博士の心中の苦しみは察するに余あるものがあつた。

博士は病後の身體をシカゴで養つてゐる間にも、醸造法の改良には寸時も心を離さなかつたが、此の時偶然にも醸造用のチアスターゼ（一種の醱酵素）を分離させて澱粉の消化劑を造る事を思ひ付き、茲に遂に世界の醫藥界を驚かしたタカチアスターゼを發明したのである。タカと言ふのは博士の姓の高峯の「高」を引用したものである。

此のチアスターゼといふのは、醱酵を促す力が強く、少量で以て能く大量の物質を分解させる力を持つ



つてゐて、これを吾々の食物と共に攝ると非常に消化を助ける。これを人工的に得る事は、従来の學者達の容易に出来ない所であつたが、博士はアルコール醸造に必要な麹の中にヂアスターゼの在る事を知り、苦心研究の結果これを純粹に分離させる事に成功したのである。

博士は又この時代に、内分泌腺ホルモンの研究に着手し、副腎の成分を化學的に分解し、その中に有効成分の在る事を證明し、これを抽出す事に成功し、アドリナリンと命名した。アドリナリンは種々な醫藥的効能を持つてゐるが、血止藥として我國では有名である。

アドリナリンに對しては明治四十五年帝國學士院から、帝國學士院賞が授けられ、發明協會も博士を名譽表彰した。  
博士は大正十一年七月永眠したが、病篤くなつて正四位勳三等に叙せらるゝ恩命に浴した。

で、筒先から彈丸を込める先込銃といふのが多く、元込銃もないではなかつたが今日の小銃に較べると丸で問題にならなかつた。

其の頃陸軍造兵廠では氏を用ひて小銃の改良發明の重任に當らせた。射撃は極めて巧妙であつたが、小銃製造について専門的技術を修得してゐるわけではなかつた氏は、只熱心と責任觀念とで日夜苦心慘憺し、遂に十三年式村田銃を案出した。之は當時獨逸のモーゼル銃や佛蘭西のグラ―銃などよりは確に優秀な小銃であつた。越えて明治十五年にはこの十三年式村田銃を携へて遍く歐州諸國を巡り、各地で名聲を博し、歸朝後更に改良を加えて十八年式村田銃を發明し、次い



青年時代の村田少將

で二十三年式十連發村田銃を完成した。  
かの日清戰爭の折は十三年式及十八年式が使用され、北清事變の頃には二十三年式が使はれた。日露戰爭當時には有坂銃（三十年式）が盛に活用されたが、之れは全く村田銃に負ふ所が多かつた。

氏は又銃器改良の暇に刀劍の鍛錬製作に努力し、遂に大和魂を代表するに足る名刀を作つた。  
或る日愛劍家を招いて、劍會を開いた。第一番に村田刀で試し切りをしたが、豚の首や銅の延べ金は勿論、少し刀は曲つたが鐵線をも物の見事に裁ち切り、一座の富岡少將は秘藏の兼元を以て延べ銅に切り付けたが惜しいかな刃はボロ／＼になつたといふ。これ以來村田刀の斬れ味は

我國が産んだ世界的大發明家としての博士の業績は、米國に於ても、最も華々しい成功を収めたのであつて、米國新聞紙は無冠の大使として博士を迎へた程であつたが、翻つて吾々は博士の生涯を貫く不斷の研究心と撓まざる活動的精神とを決して見逃してはならないのである。

### 二、我國兵器界の恩人

#### 男爵村田經芳氏

男爵村田經芳氏とだけ聞けば一寸思ひ當らないが村田銃の少將と言へば誰でも知つてゐる。  
氏は天保三年六月十日、鹿兒島藩の砲術者の家に生れ、幼少の頃から銃器の研究や製造に深く趣味を持ち、これに新考案を加へる事を無上の樂としてゐた。維新の際には戊辰の役に從軍してから一生を軍籍に置く事となり、陸軍歩兵少佐に任ぜられ、後次第に進んで少將に榮進した。西南役の後兵器改革の議論が盛に起つたが、其の頃の軍用銃は實に不完全



廣く世間に知れ渡り、實用的の刀劍として何人にも賞玩せられるやうになつた。

氏は年老ひてからも常に種々の發明考案に身を委ね、重い病の床に在つても、尙ほ考案を樂むといふ熱血の士であつた。

現在では三八式歩兵銃の如き優れた小銃も出來てゐるが、村田銃の名は日清日露兩役と共に國民の念頭から永久に離すべからざるものである。

### 三、東洋の眞珠王

#### 御木本幸吉氏

安政五年一月、貝の名

所志摩の國鳥羽町の蕎麥屋に産聲を擧げた御木本幸吉氏は、幼少の時から父を助けて家業の蕎麥屋を營んで居たが、父の死後は外に海産物商をも始めた。



東洋の眞珠王御木本幸吉氏

一四 富裕ではないが其の日の衣食に困る程でない言はば願調平凡の人であつた氏が、一度眞珠の養殖に手を染むるやうになつてからは、氏の生活には波瀾に次いで波瀾が起り、一難去れば一難更に來り、氏及氏の家族は世の有らゆる貧苦艱難と闘はねばならなかつた。然し永年の苦闘の結果、今や其の發明は完成し其の事業は發展し、世人は氏を名づけて「東洋の眞珠王」と言つてゐるが、確に名實共に相合したものといはねばならない。

氏は海産物商として天然眞珠を販賣してゐた。志摩の英虞灣から出る眞珠は品質優良で外人の賞讃を受けて居たが、同地方の漁民が濫りに獲るので眞珠介は尠くなり産額も年々減

少するのを遺憾とし、その保護蕃殖に非常な力を盡した。明治二十三年東京で理學博士箕作佳吉氏及び理學博士岸上謙吉氏の指導を受け、養殖眞珠の製造を思ひ立ち、直ちに鳥羽の英虞灣内神明辨天島海岸に木石を沈設し、種々工夫考案の末或る方法を施して眞珠介を放養した。これが氏の眞珠養殖事業の始めである。

爾來専心研究に従事したが、當時の數年間は全然失敗した。かて、加へて二十五年に英虞灣内に眞珠介にとり最も恐るべき赤潮が襲來し、試験中の養殖介は凡て死んで了つた。氏は此の頃新事業のために家業も捨てた上に事業資金も殆んど使ひ果してゐたので、この慘事に遭ひ全く絶望の底に落とされた。周囲の人々は氏に勸めて事業を中止させやうとしたが、心中深く決する所のある氏は斷然之れを除け、益々勇を振つて研究と實驗とを重ねた結果、或る日放養してある眞珠介の内に眞珠が出來てゐるのを發

見した。

かくて二十七年半圓眞珠の養殖に成功し、此の養殖法は明治二十九年一月專賣特許を得た。爾來十數年、以前にも増した困難を物ともせず此の方法に改良を加へ、漸く光澤色彩の優秀なものを作り出すやうになり、大正二年には愈々眞圓眞珠を完成し、色澤、形共に天然眞珠に等しい優良品を産出し、歐米の市場に大恐慌を與へた。

これより先き氏の養殖眞珠は天覽に供せられ、又その養殖場は皇族の御親臨の榮に浴した。尙ほ明治三十九年六月に綵綬褒章を賜つた。

氏の眞珠は今や内外に名聲を博し、販路は擴大され、志摩郡英虞灣内並度會郡五ヶ所灣内の養殖場と東京銀座の販賣所を中心として事業は益々發展するばかりである。吾々は氏の今日の成功を賞する前に、その半面には氏の超人的な惡戰苦闘と氏に多大の内助を與へた亡夫人のあつた事とを記憶せねばな



らぬ。

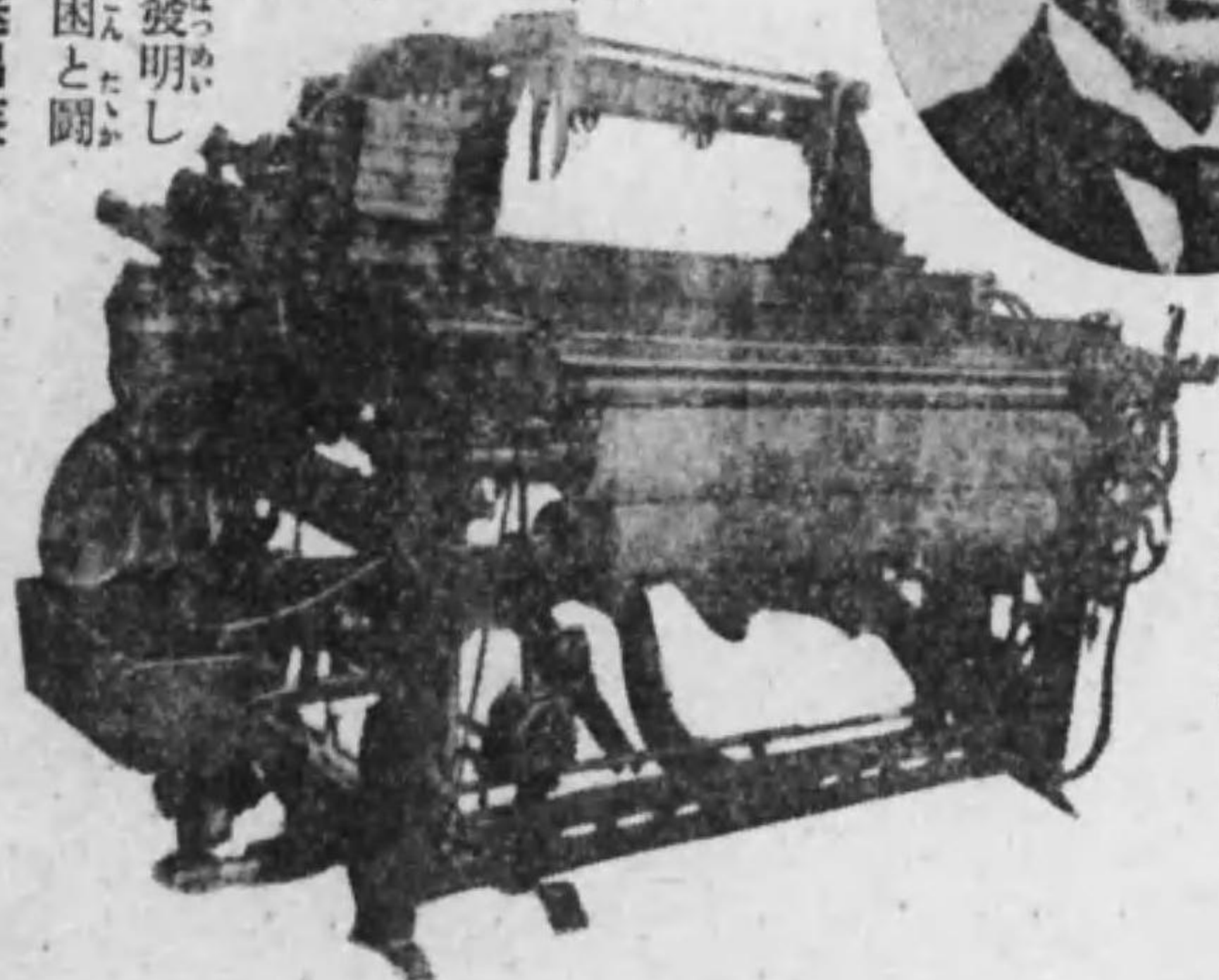
#### 四、豊田式織機發明

者豊田佐吉氏

幾十の多きに達する木綿織機の中で、その右に出づるものはないといはれてゐる豊田式織機の發明者豊田佐吉氏こそは、我國織機界の偉人であり又我國有数の大發明家である。



氏は慶應三年静岡縣濱名郡に生れた。十四歳の時木工を學び後、織物工場に這入つて職工となり、織機改良の必要を感じ、機會があれば、其の研究考案に心を砕いた。當時我國の紡績業は英國の機械に依つてゐたのであるが、明治二十五年に氏は豊田式人力織機を發明し二十八年には動力織機を完成した。其後尙貧困と闘ひながら益々研究を続け、三十四年には織機送出装



機機動自式田豊と氏吉佐田豊

置を完成して内外國の賞讃を博し、翌年には自動織機を發明し外國品を凌ぐ國產豊田式織機を完成するに至つた。

其の後も不斷の努力を傾け改良又改良、氏の發明品として今日迄に日本特許を得てゐるものは合計三十七件(中には外國特許も含まれてゐる)實に我國紡績界の大恩人である。中でも氏の發明に成る環狀織

機は、世界の何處にも類のない特色ある機械で、動力を減じ、幅廣い織物を容易に且つ完全に織ることの出来る長所を持つてゐる。

氏は明治四十年に豊田式織機株式會社を創立し、大正七年には豊田紡績株式會社を、十五年には豊田自動織機製作所を設立した。同年帝國發明協會は氏に對し恩賜記念賞を授與してその功績を表彰した。由來發明家は、多くは技術的教育や組織的教育は無くとも生來の才幹と畢生の努力とに依つて目的を達するものであるが、氏の如きも亦實に此の種の代表的人物である。

#### 五、織維工業の革新者

坂根清一氏

坂根清一氏は紡績絹絲の改良者である。我國織維工業の恩人である。

元來紡績絹絲の缺點としては、澤が少なく羽毛が出来易く質が柔か過ぎるが、これらの缺點を改良し

紡績絹絲を殆んど通常の生絲と區別の出来ない程度にまで完成させたのは、氏が多年努力苦心してなした數多の發明の賜である。

近年我國の絹絲紡績業は急速の發達を遂げ、外國にに向けても多額の輸出をし、特に印度に於ては伊、佛諸國の製品を次第に退け、逐次其の販路を廣めてゐる。此の進歩を作り出した第一の功勞者は實に氏であると言はねばならぬ。

氏は慶應三年京都府に生れ、既に小學校時代から織物に關して非常な興味を感じてゐたが、家運没落したため好きな織物を専ら研究する餘裕がなく、明治十八年京都に出で、當時の新歸朝者近藤徳太郎氏や稻畑勝太郎氏等の知遇を受け、織物研究に關する種々の新知識を教へられた。然し貧乏な氏は或時は織屋の織子となり、或時は染屋の染子となり、又石鹼の行商人となつて、生活費や研究費を稼がねばならなかつた。後東京に出て紡績を研究し、明治二十



三年には日本全国の機業地を視察し、其の間殆ど全部機業が舊式のものである事を痛感し、大いに優秀な機械を發明しやうと決心したのである。而して幾多の困難や障害と闘ひながら、或時は世間からも又或時は血族からまで捨てられ、人生のあらゆる不幸を嘗め盡し、再び京都に赴いて發明に没頭し織維工業に關する數十件の特許を得たが、其の殆ど全部が實施せられ、我國の紡績絹絲は氏の力に依つて大いに面目が一新せられたのである。



氏一清根坂者新革の業工維織

氏の發明中最も顯はれたものには、生絲様紡績絹糸製造法、紡績絹絲の絲味を佳良ならしむる方法、紡績絹絲及其織布の製造法、特殊絹絲及其織布の製

としたのも氏である。

氏は幼名を與三郎と云ひ後家を嗣で什三郎と改め明治五年眠龜と名乗つた。天保五年十月備中茶屋町

造法等がある。氏は發明を自己の天職と信じ、ひたすら發明の振興に従事し公職につかず、事業に手を出さず、只自己の發明が幾分でも社會に寄與する所があれば満足するといふ清廉の士である

六、花筵業の恩人 磯崎眠龜氏

氏は我國重要輸出品の一である花筵業の恩人である。始めて機械製造法を發明し我國の製造工業に一新紀元を作つたのは氏である。始めて花筵の海外輸出を試み遂にこれを重要輸出品の一

に生れた。

同地方は小倉織物の産地であるが、氏は家業である小倉織に非常な改良を加へ、原料や製法を改めて遂に優秀なものを製造して同地方の小倉織の面目を一新させた。其の他の織物や蚊帳、段通に至るまで種々な改良發明をなした。

明治五年家を子に譲り全力を發明考案に注ぎ、種々な機械の考案には、可成見るべきものがあつたが社會は未だ之れを認めて呉れなかつた。

筵織機の改良に着手したのは明治九年である。當時我國の蘭蓆業（水草である蘭を用ひて蓆を製造する事）は農民の副業であり、其の製法も頗る幼稚で



氏龜眠崎磯人恩の業筵花

あつた。數年間日夜研究の結果、蘭蓆を製出する一種の小さな筵織機を發明したが、最初の中は實地應用に際して蘭草が寸斷されて用をなさなかつたが、苦心考案の後蘭草が寸斷されずに最も緻密なる蘭蓆を織出す事の出来る筵織機を案出した。

現在花筵織機の發明特許となつてゐるものは幾百種の多きに達してゐるが、部分的には異つてはゐるが、花筵の織り方に至つては大抵氏の發明を採用してゐるのである。

氏は又紋様挿織機を考案し、如何なる紋様でも蓆の表面地質を變へないで簡単に織出すことに成功し



更に進んで蘭草染色法の改良をなし、明治十一年五月茲に有名な錦莢蓮の製出を完成させる事が出来た。

然し氏が最も困難とした點は錦莢蓮の販路の問題で、國內では勿論當時此の優秀品を使用する程度に文化は進まず、海外に對しても成功の自信はなかつたが、後援する者があつて試みに英米に送品して見ると意外にも好評を得、漸次海外へ輸出するやうになつた。

其の後氏は益々改良を加へ事業を擴め、經營方法や同業者間の商業道德の問題まで考慮して斯業の發展を計つた。

花筵業に關する氏の奮闘努力は洵に産業人の模範であつて、明治三十年十月には綵綬褒章を下賜せられた。

### 七、樂器製造界の霸王

山葉寅楠氏

て三十日目に調律に關して悟る所があり、直ちに濱松に歸り新樂器を製作し、遂に舶來品に劣らない優秀な風琴を發明した。是我國に於て洋樂器の製作された最初である。

爾來氏は濱松で樂器製作に従事し、明治三十年には日本樂器製造株式會社を創立した。三十二年には米國に渡つて研究を重ね、歸朝後は益々改良工夫したので、山葉風琴の名聲は次第に舶來品を退け、三十四年頃からは外國からの風琴の輸入が全く無くなつたばかりか、却つて海外に逆輸出をするやうになつた。かくて明治三十五年には綵綬褒章を授與せられた。

其の後洋琴の製造にも非常な努力を拂つた結果、兩者共内外の需要は愈増加して、氏の事業は益々發展して來た。

男子一度事業を企て獨力を以て海外の輸入を防ぎ今は本場の歐洲にまで逆輸出するに至る、この位輸

多少でも音樂に興味を持つ者は山葉風琴、山葉洋琴の名を知らぬものは無い。此の山葉風琴、山葉洋琴の製作者こそ山葉寅楠氏である。

氏は和歌山縣の出身で、長じて遠州濱松に住んだ明治四年以來衆に先んじて時計製造を業としてゐたが、和製の時計の無かつた當時、進んで之れが製造に當つた氏の發明考案に對する自信力の程を察する事が出来る。當時小學校令が公布せられ、唱歌科が設けられたので、氏は當然樂器の必要の起る事を知り、外國品に依らず國産の洋樂器を作つて之れに當てやうと決心し、明治十七年に時計製造業を廢止し西洋樂器の創作製造に従事したが、當時我國には未だ樂器製造者は一人も居なかつたので、其の苦心は並大抵ではなかつた。

かくて漸く出來上つた風琴は大切な調律がまだ不完全であつたので、氏は東京の音樂學校に聴講生として入學し、若い學生と共に調律を研究し、入學し

快なことが又とあらうか。

### 八、我國發明界の巨人

鈴木藤三郎氏

鈴木藤三郎氏は静岡縣の人で、父を太田平助と言ひ、五歳の折菓子商鈴木伊三郎の養子となつた。一意専心、家業に精勵し、二宮尊徳翁を尊敬して己が家運の繁榮を計つた。

當時我國の製糖業は甚だ幼稚なもので、高價な精製品は悉く海外よりの輸入品であつたから、菓子製造業の氏は其の原料糖の缺點を痛切に自覺し、遂に意を決して砂糖精製法の發明を思ひ立ち、其の第一歩として先づ氷砂糖精製法に手を染めた。日夜苦心焦慮の結果遂に品質優秀な氷砂糖を製出する事が出來た。

明治二十一年に氏は東京に工場を建て、二十八年に日本精製糖株式會社(後に大日本製糖會社となる)を創立し、次いで歐米の視察を終へて歸朝後臺灣製



糖會社を設立し、此の間絶えず製糖機の改良發明に意を用ひた。

其の特許になつた主な發明には氷砂糖製造方法及装置、並に右の改良等がある。而して氏は間もなく製糖事業から手を引き、

その後醬油醸造法の發明に没頭し日本醬油醸造株式會社を起したが、其の發明中主なものには醬油醸造法、醬油醸造機等がある。

尙氏は右の外に汽罐、燃焼器、製鹽装置、乾燥器等に關する發明を併せて合計百件に近い特許を持つてゐた。實に我國發明界の巨人と言はねばならぬ。



士博郎太梅木鈴者明發のニミタキヅ

### 九、ウキタミンの發明者

鈴木梅太郎博士

今日の醫學上から見ても、藥物によつて治る病氣及びこれを治す藥物の數は僅かであつて、鈴木博士の發明したウキタミンの如きも確

に其の内に數へらるべきものである。

博士は明治七年に生れ、二十九年東京帝國大學農科大學を卒業し、二十四年農學博士の學位を授與せられ四十年には母校の教授兼盛岡高等農林學校教授に任ぜられた。大正七年理化學研究所研究員を囑託せられた。氏の發明した米糖中の一成分アベリン酸の製法は、後オリザニンと改稱されたもので、普通にはウキタミンBといはれ脚氣の豫防並に治療藥として有名である。氏は精密な動物試

驗によつて、オリザニンが營養上缺くべからざるものである事を證明し、従来の營養に關する學說の缺陷を指摘して今日のウキタミン學說の基礎を確立し

内外の學者も亦之れを認め、大正十三年には帝國學士院から帝國學士院賞を授けられるに至つた。この發明は單に脚氣藥であるばかりでなく、ウキタミンAと共に動物の營養上缺くべからざる事が一般に認められ好評を博してゐる。大正十五年には帝國發明協會から恩賜記念賞を授與された。

博士は昭和六年の歲初めに、聖上陛下の御前で化學の御進講をし、尙最近又ウキタミン及び其の他の種々の發明の爲めに陛下から褒章を御下賜になり又御陪食仰せつけられたのである。

博士の研究論文は數百通に達し、我國の有機化學の第一人者である事は言ふまでもなく、其の眞剣な研究に依つて成つた偉大な結果は、永久に人類社會を救ふ惠の光と言はねばならない。

### 十、世界に誇る磁石鋼の發明者本多光太郎氏

現今世界中の磁石鋼の中で最も優秀なKS磁石鋼は、日本の學者の手で發明され、目下大阪の住友製鋼所で製造されてゐる。

大正七年、非常に強い頑性力と強い残留磁氣を持つ合金鋼が、磁氣學及び鐵鋼學の權威である本多光太郎博士と、實驗物理學の研究者高木弘學士との手に依つて發明されたのである。この鋼は今まで世

間に知られてゐた磁石鋼、例へばタンングステン磁石鋼に較べると著しく勝つたものである。この新に發明された世界最優秀の磁石鋼をKS磁石鋼と命名したのは、當時合金鋼の研究に對して本多博士の研究室に金二萬一千圓を寄附した男爵住友左衛門氏の姓名に因んだものである。このKS磁石鋼は、電氣諸機械に附屬してゐる永久磁石として使用されるものである。



本多博士は明治三年愛知縣に生れ、三十年東京帝國大學物理學科を卒業、三十五年理學博士の學位を授けられ、大正五年鐵に關する研究に對して帝國學士院賞を授與せられ、現に東北帝國大學の教授である。大正七年に氏が發明した特殊合金鋼に依り、國産の磁石鋼が舶來品を驅逐し、我國工業界に貢獻する所頗る大なるものがある。

十一、電氣工業の進歩に貢獻した山本博士と川原田教授

山本忠興氏は明治十四年の生れ、三十八年東京帝國大學電氣工學科卒業と同時に芝浦製作所に入り、四十一年歐米に遊學し大正



士博郎太光田本者見發の鋼石磁

十年早稻田大學理工學部長の職に就て今日に及び、大正六年に工學博士の學位を授けられてゐる。川原田政太郎氏は明治二十三年富山縣に生れ、大正四年早稻田大學電氣工學科を卒業後直ちに小穴製作所に入り、大正八年母校の助教に任ぜられ、十一年歐米に出張を命ぜられた。兩氏は共に早大の電氣工學科の實驗室に於て、大正八年以來種々なる研究に従事してゐるが、大正九年に同期電動機を發明した。之れは兩氏の後の苦心研究の結果益々好評を博してゐる。兩氏共同發明の同期電動機は單に主閉器を閉するだけで自ら起動し自ら勵磁し自ら同期に入るのであつて、正に電氣工業界に於ける劃時代的の發明と云ふべきものである。

る。

此の發明は主として高壓電動機に適し、F型電動機と稱して發賣せられてゐる。之に對して帝國發明協會は大正十五年恩賜記念賞を授與して表彰した。

以上で極く大體ではあるが、明治十八年以後の著名な發明十一を選びその發明家の發明までの経路と發明品の概略の説明をしたわけである。

要するに吾々が何れの發明家からも同様に教へられる點は、第一に發明が決して單に机上の學問からのみ生れるものでなく、その動機は必ず體験や實際上の必要から生じて來るものであるといふ事である。而して發明家としての必要條件は堅忍不拔の精神と終始一貫した奮闘的生活となければならないといふこ



教授郎太政田原川



士博興忠本山

近代の主な發明	發明物件	發明者	發明年代
	蒸 汽 船	フルトン	1807
	汽 車	スチブソン	1829
	飛 行 船	ツエツペリン	1908
	電 信	セムメリング	1808
	電 話	ベル	1876
	活 動 寫 眞	ルミエール	1896
		エヂソン	1895





# 民衆のための金融

- 一、我が國特有の無盡の話
- 二、信用組合と金融方法
- 三、報徳社の仕法と金融
- 四、民衆金融機關としての貯蓄銀行
- 五、公益質屋の話

## はしがき

「何とかいゝ金融の方法はないだらうか」といふ語はよく聞くことである。一般勤勞の民衆にとつて自分の仕事や勤勞の能率を高め、生活の安定や改善を計るために適切な資金が容易に調達出来る明るい金融機關はないものだらうか。一般の銀行は民衆の金

融機關としては中々之を利用する事が出来ないので擔保なしに民衆が簡単に金を借り入れる方法としては質屋や高利貸を利用するより外知らない人が多いのである。それが爲めに勢ひ親戚や友人などから義理のわるい金を借りるとか、手持の品を捨値同様の擔保として無理な金融をするとか、又は高利貸から途方もない高い金を借受ける人が多いのである。しかしこれらは、體裁上からも又その高利な上からも金融としては決してよい方法ではない。日本にも一般民衆のための金融機關がないのではない。たゞよく知られてゐないために利用することが割合に少いのである。夫々の金融機關には夫々の特質があつて一長一短はまぬがれないが、比較的手輕に正當な資金を手に入れる事の出来る二三の金融方法について簡単に話してみたいと思ふ。

## 一、我が國特有の無盡の話

古から行はれた日本固有の金融機關 無盡といへば老人や田舎の人々は知つてゐるが、若い人々には割合に理解してゐる人が少い様である。無盡は學問上からみても實際上からみても立派な相互金融の方法であつて、數百年來日本支那朝鮮等で發達した東洋獨特のものである。

無盡は古來人間の共同社會の本來の性質である所の共濟隣保や相互扶助等の目的の下に行はれて來たものであつて、その組織は貯蓄の機關としての働らきをしたり資金の金融機關になつたりし、又相互保險の様な性質も持つてをり、現に其の無盡の計算方法などは保險の數理に近いものである。

無盡は明治になつてから新らしくとりいれられた銀行や信用組合などもちがひ、古い時代から日本の民衆の間で發達してきたものであるから、我々日本國民の生活とどこかびつたり合つてゐる所がある。そのためか銀行の様に財界有力者の後立もなく、

又信用組合の様に政府からの獎勵や、援助もないのに、驚ろく程の發達をとげて、昭和六年末現在の統計でも無盡會社だけで契約高約十三億圓、加入者への給付濟高が五億數千萬圓の現勢であり、全國の津々浦々にまで行き亘つて民衆金融機關としての唯一の働らきをしてゐるのである。

## 無盡のはじまりと歴史

今から八百年許り前に諸國に伊勢講、天神講、富士講、稻荷講、御花講といふ様な色々な講があつた。之らはいづれも世話人があつて毎月若干の金錢を集めて積立て、おき、講員の神社や佛閣の参拜の旅費にあてたり、その供物調進などの費用を補つてゐたものである。無盡講、頼母子講などはこの種のものから轉化つてきたものであらうといはれてゐる。これが後になるとお互に相集つて自分達が平生いくらかづつお金を掛け合つておいて、會員の中で一番急に必要な人とか或は加入者の中で不時の災害に合つた人とかにその



金を借してやつてお互に不幸な人を扶けてゆくといふ風になつたのである。無盡は昔からこの様に相互救済の意味が含まれてゐたのである。そして無盡といふ語も僧家の無盡財に發してゐるともいはれ、**觀音經**の中にも無盡といふ佛語が現はれてゐる事からみても恐らく其の初まりは支那から起つたものだらうといはれてゐる。又頼母子講は相互に頼み合ふといふ事から轉化してきたものであらうと傳へられてゐる。

是等の無盡講、頼母子講は其の後段々發達してきて、その頃の百姓や町人や下級の武士達の唯一の相互救済の金融機關となつて、さうして鎌倉戰國時代には謂はゆる、救済的な團體となつたのである。それが徳川時代にはいと漸次利益を目的とする投機的、射幸的、富籤式なものとなつてきた。これがたゞめ遂には取退無盡などといふものも流行する様になり、一度お金を抽籤でとつたものはその後掛金をか

けないでよいといふ様な、殆んど賭博に近い様なものになつてきた。一方又無盡の金を澤山集めてから講員には金をやらないといふ様な不正な無盡の講元などが出てきて、色々の弊害も起つたので幕府でも屢々お布令を出して無盡を取締つた程である。明治に入つて明治維新の創業が成つてからは、企業熱の勃興とともに新興民衆の金融として銀行などが生れたが、一方無盡も會社となつて民衆の金融機關として隠れた勢力を持つ様になつてきたのである。しかし、しばらくは適當な取締法がなかつたので色々の不正や弊害も醸されたので大正四年十一月一日に**無盡業法**が施行されその下に取締られる様になつた。それでこの古來から行はれ、今では主として地方廳の取締をうけてゐる講と、大藏大臣の免許をうけて無盡業法の下に營業してゐる**營業無盡**との二つに分れてゐるのである。

**無盡の組立方法**

講を組立てようとするには豫め

講會の趣旨書や講則をつくつて、先づ第一に無盡に加入しようとする講員を募集するのである。(講則に

關する事、講の實行方法などについて規定する)講員の募集に取りかゝる前には前以て世話人が連署で所轄の警察署へ出願して地方長官の認可をうける事が必要である。しかし同じ會社、工場、鑛山内とか親族間や、又總口數が三十以下のものはこの許可はいらない事になつてゐる。

無盡を組立てるに大切な要素は五つある。それは**口數、期間、毎回掛金額、給付金額、給付の順位**を定むる方法等である。

- 一、**口數** 之は講を組立てる分子で會社では株の様なもの随つて一人の講員が何口でも持つ事が出来るから講員と口數とは一致しない。給付は毎月一口づゝきまつてゆくので口數は期間によつて定まる。例へば期間が一年で毎月一回の開會とすると口數は十二口といふ事になる。
- 二、**期間** 毎回の掛金を少くしようとするにはこの期間を長くし、掛金は少々多くても短期間の方がいとすれば

期間を短かくする。

三、**毎回の掛金** 口數と總掛金がかまると大體きまるのである。

四、**給付金額** 融通を受ける事の出来る金額で總掛金と同じ時もあるが又異なる時もある。かりに給付金が總掛金の八割とするとあとの二割は講の諸費用や利息にあて、あとで講員へ割戻すのである。

五、**給付の順位を定むる法** 無盡の特色は毎回必ず誰かが一口宛は融通をうけてゆくといふところにあるから、その融通をうける順位を定めなければならぬ。それをきめるには色々な方法があるがもつとも多く行なはれてゐるのは抽籤、入札、及抽籤入札混交の方法である。

**無盡會社に** 無盡會社による無盡は普通營業無盡といはれてゐる。之は大正四年十一月に發布された無盡業法によつて出来てゐるもので、現在約三〇〇許りの會社がある。無盡會社は普通の無盡と違ひ、法律上色々な規定が設けられて加入者の權利は保護されてをり、會社の重役は無責任であり、又掛金の運用も法律で定められてゐるので



民衆の金融機關として完全な働きをなす様に出きてゐるのである。又會社の特徴は加入者の一部に掛金が滞つても、全部會社が負擔して立替へるから、他の加入者の迷惑や損失になることはない。又掛金の拂込の優良な者には奨励金を出す會社もある。集金も毎月掛金をとりにくから、手数はかゝらない。無盡會社は、貯金をしたい人とか、まとまつた金をほしい人とか、住宅を得たい人、子供の教育資金を望む人、舊債返済資金を欲しい人などは利用していいだらうと思ふ。

### 無盡會社の特徴

他の金融機關と比べて無盡會社のいい點は、手續も簡單で加入の直ぐ出来ること、又金利が非常に安いこと且つ返済は長期に渡り返済しづしであるから、知らずく皆済出きる便利のある事である。又他の金融機關と全くちがふ所は無盡に加入したものは、遅速の差こそあれ一度は必ず融通をうけることが出来るので、これは他では

な村がある。この村は今から六七十年前には悲境のドン底にあり、村の百姓は新しい農具の一つも家畜の一匹も——皆高利貸の擔保になつてゐたので——持つてゐなかつたのである。村民は自暴自棄になり、將來に對しては何らの希望も光明もなくなり、酒と博賭とにふけり、毎日喧嘩ばかりして暮らしてゐたのである。所が其の村が今日ではどうかといふと、地は充分に耕され百姓は皆富裕になつて、納屋や倉には食料が一ばい貯蔵され村には立派な學校や病院や教會堂が立ち、住宅も驚ろく程美しくなつた。又耕作には最新式の農具や肥料が使はれる様になつてきた。村民の人情は自然に純朴になり愉快に平和に暮らしてゐるのである。これ實に一八六二年ライプアイゼン氏が始めて此村に信用組合を作つたからである。又之より前の一八四八年にはシュルツェ氏がドイツのデイツの町に靴工や指物工などの手工業者のために原料購入の目的で一つの小さな信

全く見られぬ所である。しかもその融通は銀行や信用組合や質屋などの借財とちがひ當然の權利である。この外他の金融機關としては全く類例のない無盡獨特の事は射幸的興味（よい運を當てようとする興味）の伴ふことである。抽籤入札方法によつて給付順序が決まるので、最も興味ある事であり、又無盡の魅力であると思ふ。

かく無盡は色々の特徴を持つてゐる。無盡は八百年の古い歴史を持つてゐるだけ、それだけ國民に親しみ易い極めて民衆的な金融機關であつて、又世界における民衆金融機關としても中々優秀なものであるといはれてゐる。

### 一、信用組合と金融方法

#### 信用組合の起原と發達

ドイツのライン河の邊りノイビードといふ所の近くにウエスタンワルドといふ高原があり、そてにアウパウセンといふ小

用組合を始めた。この二つの信用組合が今日世界の隅々迄行き渡つてゐる信用組合の起原であつて、日本の産業組合もこの制度に負ふところが多いのである。

我が國では明治の初め、品川彌二郎、平田東助の二氏がドイツ留學の當時産業組合の状況を見て非常に感じ、之を我國にもうつし獨立自營の道を開きたいと色々苦心したのである。そして自給自助のこの組合制度と我が國に昔からある報徳社や諸種の無盡講等の相互扶助的な金融機關の慣習等を參照して信用組合法案の完成を期し、そして遂にこれらの人々の努力によつて明治三十三年三月産業組合法が兩院を通過し、産業組合が日本における民衆の金融機關として始めて法律上に現はれたのである。それ以來三十五年の試練と經驗とを経て今日の様な立派なものになり、現在日本では約一萬五千の組合があり又東京には中央産業組合の親銀行である産



業組合中央金庫といふものも出てきて、今日見る様な系統的な組織が出来上つたのである。

信用組合の生れたわけ

信用組合は何のために生れたかといふと中流以下の民衆のための金融機関として生れたのである。現在の銀行の様な金融機関では多数の資産家や企業家にとつては便利な機関であるが一般中産階級以下の民衆にとつては不便極まる機関になつてゐるので、それでどうしても一般民衆のための又民衆によつての金融機関が必要であるといふので、此の考へが遂に十八世紀の中頃、信用組合の形になつて表はれ、これが次第に發達して今日の様な完全な相互扶助的な金融機関になつてきたのである。即ち之によつて中産階級以下の人々に容易に資金を供給して、其の生産力を増さしめ、その經濟上の改善安定や向上を促して、下層階級の者を中産階級にすゝめ、又中産階級の没落を防ぎ、互に相寄り相扶けて共存共榮の良風を養ふとするの

が、この信用組合の理想である。

信用組合はどすんな所か

日本の信用組合は明治三十三年公布された「産業組合法」による産業組合の一つで組合員相互間に、信用に基いて産業上又は經濟上の向上や發達に必要な資金を貸付けたり、又は組合員の貯金を預ける所である。産業組合には此の信用組合の外に、組合員の作つたものを賣り捌く「販賣組合」、又は其の必要なものを共同で借入れる「購買組合」、組合員のやつてゐる各目の仕事に必要な設備を共同で利用する「利用組合」日常の必要品を共同で買入れる「消費組合」といふ様にあるが、ここでは金融組合としての信用組合について語りたいと思ふ。

信用組合は組合員相互のために有無相通じて、經濟的利益が自動的に得られる様になつてゐる金融機関で普通次の様な仕事をやつてゐる。  
1、資金貸付

組合員に限つて組合員の仕事や日常生活に必要な資金を貸付ける。

2、資金の預り

組合員のため預り金をなす、但し都市の信用組合では組合員外の預金も扱ふことができる。

この貸付は組合員のみに限つてゐるため、其の取引の手續等も銀行などよりは自然、簡易で且つ安全に運ばれる。

資金の預りは定期預金、當座預金、据置貯金等普通の名稱を有する貯金許りでなく、信用組合に見逃しがたい特色は極めて趣味深い貯金が各組合毎に數多く行なはれてゐることである。例へば次の様なものがある。

副業貯金 組合員の副業の製作品共同販賣で得た金を組合へ預る。

愛兒年齢貯金 例へば太郎が一歳の時は一圓二歳になる

誕生日貯金 家族の生年月日貯金、誕生日を記念し特

一日一善(錢)貯金 一日に何か善行を一つしたならば一錢を積む。

義務貯金 組合が各自喫茶を節約し、從來より下級品を用ひてやる。

組合から資金を融通する

組合員になつて相當な貯金も出きたら組合を利用して資金の融通を計る事が出来るのである。貯金のない方で融通をうける時は其の借入金と同額の月掛貯金をなすことによつて必要な金を借入れる事の出来る組合もある。利子は時と條件によつて一定してゐない。組合から資金の融通をうけるには普通次の様な方法がある。

イ、信用借入 拂込の出資金の二倍から三倍の金額を借入れる方法で保證人が要る。

ロ、手形割引 手形を割引して貰つて借入れることが出来るが割引率は大抵貯金を参考にし

ハ、擔保貸付 有價證券や不動産などを擔保に融通して

ニ、定期貯金見返りの貸付 此の貸付は保證人も要ら

ないし、手續も簡單でその上持分の證券



に對してはこの年度の配當金の一部は受けられる。

### 資金の融通と組合精神

組合員が借入を申込むと、先づ組合では信用調査部に於てその組合員の人格や信用程度や財産能力を調査し、適當と認むる時は、理事者合議の上で貸出すのだ。組合員の中には何時でも申込み申込んだ額を直ぐ借入れられる様に考へてゐる人もある様だが、そういふ工合では組合資金がいくらあつても足りなくなる、組合に對し貯金も相當にあり、信用もある人なら普通借りられるのであるが、色々、組合本来の使命にてらして組合のためにならない様な時には、申込み拒絶したり貸付金額を減らしたりすることがある。元來信用組合は銀行の様に物を標準にした物との結合でなく、心と心の結合が本来の理想であるから、組合の方でも出きるだけ公平に調査をし組合員の真相を掴み、夫に適應して貸付ける様にしなければならぬ

三四  
が、組合員も常に組合の使命を考へ、自己の眞實な生活を明からさまにしなければならぬのである。信用組合は組合員自身のものである。相互扶助的精神から生れたところの團體で、一番恐れるのは放漫な人の活動であるが、就中金融機關においては一番大事なことである。信用組合は相互組織であるため、お互の持寄り財産を貸付資金の主なるものにして運轉してゐるのであるから、組合員は皆それ／＼その責任を分擔してゐる様なものである。それ故返済期日なども正確にし、又幾つもの借入の重復などない様、自分の利益ばかりでなく組合員全般の事も考へる心掛けが大切であると思ふ。それでこそ自己同榮の實も結ばれ、組合員全般の幸福と發展が期待され、かくなつて初めて民衆それ自身の理想に近い相互金融となるのである。

### 組合員になるには

次に組合員になるにはどうするかといふと、組合員には誰でも、いつで

もなれるのである。唯一つの條件は組合が法律で許

されてゐる**事業区域内にゐる人**でないといけな

いのである。之は銀行と違つて個人の信用を主とする相互の金融機關としては當然の事である。先づ組合員になりたいと思ふ人は、自分の住んでゐる近くの信用組合へ出かけ、よく問合はせ定款や事業案内をよく讀む、そして得心がゆかれたら組合員加入書に拂込金と加入金を添へて申込むのである。**加入金は加入の際の手数料**で十錢二十錢のものだが、

しかしその組合の成績がよくて澤山の積立金や剰餘金があり、配當の多い時には、舊い組合員との均衡の上からプレミヤム(割増金額)のついてゐる所もある。拂込金は銀行の株の様のものでこれによつて**出資證券**を受け、剰餘金の配當が得られるのである。これらの手續がすむと新加入の組合員として臺帳に記入され完全な組合員になるのである。證券は譲り渡しが出るので、古い組合員から持分を譲つ

て貰らつても出るのである。

### 信用組合と銀行とのちがひ

銀行は金を預けた人と之を利用する人とは一致しないから、銀行に金を預けた人は其の銀行が危険だと考へれば遠慮なく預金を引出しに来る。所が其の預金は銀行になく、企業家が使つて事業をやつてゐる事が多く、銀行の方で催促しても不景氣な時には大企業家も金を銀行へ返す事が出来ないから、先年起つた様な取付けや大恐慌が來て銀行が倒れる事がある。所が信用組合は、相互組織であつて、金を預けた人と使ふ人とが同一人で同じ組合員であるから、預金の取付けといふ事はなく、それで先年の大恐慌の時でも信用組合で取付けにあつて倒れた所は一つもなかつたのである。これが信用組合の銀行とちがつてゐる一つの特徴であるが又、銀行は資産家の投資によつて成立つてゐるから、剰餘金が出ると株主や重役といふ様な人々の利益として利用されるが、信用組合は組合



員がお互に出資し貯金した金であるから常にお互に利用し、剰餘金も之を組合員に配當する。又銀行は預金者に色々の税金がかかるが信用組合は營利ではなく相互扶助的な精神によつてゐるものであるから、その預金には政府は一切の税金を免除してゐる外、低利資金を融通して援助をしてゐるのである。

### 三、法徳社の仕法と金融

#### 報徳社杉山村の更生

明治九年十二月五日の朝まだき、境内に敷かれた落葉の上には霜がしるく、とおりて時ならぬ錦を織つてゐる、この朝、杉山村の同志四十名が曉の霜を踏んで黙々として社前に集まつてきた。この日こそ村に初めて報徳社が結社され、社員の心底を堅固ならしめるために村の氏神八柱神社の神前において決心書を作製し、一同連判にて調印した日であり、杉山村更生の第一歩が力強く印された日であつた。

したので、收支はいつも償はず、借金は増すばかり、村の疲弊は日一日と深刻になつていつた。

しかるに或る日片平氏が偶然、報徳仕法を書いてある「富國捷徑」の一書により、村を建て直すには産業の改善も大切であるが、心の開發が先づ第一でなければならぬ、立德致富の素地を造る事が先づ第一でなければならぬと感じ、杉山の悲運を救はんが爲めに、唯物資の増殖にのみ努力してゐた自分の愚をさと、直に二宮翁の弟子である柴田順任氏について教へをうけ、遂に片山氏や村民一同の感激は明治九年十二月五日、光輝ある杉山報徳社の創立を見て、遂に今日の理想境杉山村の第一歩が開かれたのである。かくて杉山報徳社は柴田氏と片平氏の指導の下に報徳の精神を明らかに、之を生活に織りこませ、經濟の建て直しにとりかゝつたので日々杉山村の氣風が變り、部落經濟の中心であり村民の魂を育くむ杉山報徳社のもとに、かつての悲境杉

杉山村は静岡縣庵原郡の山間の一小部落である。今は昔、世は明治の御維新になつて新らしい曙光を迎へたのに杉山部落五十五戸の生活は枯渴して年と共に暗黒の底に落ちてゆくのであつた。それは杉山といふ部落は山許りで畑は少く、唯一の毒荳(桐水油の原料)の收穫は害虫や違作つづきのために年と共に激減し、かてて加へて支那からの豆燈油の輸入のために桐水油の賣行きも減り杉山の悲境は想像以上であつた。杉山の名主片平信明氏はこの悲境を見て日夜憂慮したが、杉山村は日毎に沈倫していつた。老人共はこの悲境に直面しながらも斷乎として産業の轉換も出さず日毎に喘ぎながら没落してゆく杉山を叩つのみであり、村の青年にも頹廢的な兆候が見え享樂に遊び狂ふてきた。

信明氏は幾度か産業の轉換をはかり、蜜柑の栽培や茶畑の開拓につくしたが村人は英斷を以つて之を行ふものがなく、又行ふものがあつても何れも失敗

#### 報徳社と報徳仕法

山も全く昔日の俤を没し、更生し得たのである。報徳社は二宮尊徳翁の創始せられた報徳仕法を行ふ團體であつて尊徳翁の仕法が直接行はれない地方に初め自發的に出たのである。最初は天保十四年小田原に創立されたが、その頃は丁度信用組合がドイツに出る八年許り前であつた。其の後各地に設立されたがこの連絡統制の機關として大正十三年に掛川町大日本報徳社が本社となつたが、現在これに所屬してゐる全國の報徳社が約一千、社員数が約四萬人許りある。

報徳仕法とは、どんな事であるかといふと、天人の徳に報ゆる信念を根本精神として、これを實行する組織を立て、その實行の資源として、先づ勤勞に精勵し、分度を確立し、そしてその結果、推譲した報徳金を造成して、人生の最大悲慘事である荒廢や困窮を復興して永安の境地を開かんとする生活様式をいふのである。報徳仕法の法則は「徳を以て



富を立てるに在るので道徳と経済とが全く融合し、その結果、人生の平安の道を樹てようとするに在るのである。

### 報徳社を設立するに

報徳社は一定地域内に住む同志の結束であつて普通一市町村を最大の區域として設する事も出来る。今は報徳社は何れも定款をこしらへて内務、文部兩大臣の認可をうけ民法上の公益法人として、その組織を認められてゐる。

社員数は同志二十人以上あることが本旨になつてゐる。しかし組織がよく確立しない前に社員があまり多数であると却つて統一をかく事になつて報徳の精神を徹底しがたいし、又あまり少数であると團結力は強いがその實力が弱くなるおそれがある。

報徳社の目的を諒解した同志が社員となつて、いよく或る区域内に創設する時には、次の様な條章で定款を制つておく必要がある。

### 三、極貧急難者、天災その他不時の災厄に罹つた時の救済仕法資金。

等の事に活用されるのである。特に(一)の貧困者に貸付ける精業奨励の助貸金は毎年一回行ふ所の總會で、社員全部が記名投票によつて善行者、篤行者、精業者を表彰し、そのうちから、最も貧困に迫つてゐる者を更に投票によつて決め、その人に復興向上のための資金を貸し、投票者は、保證人として責任を負ふのである。この助貸金は通常、無利息年賦金(大抵十五ヶ年賦)で貸付けることになつてゐるが、もし利子のある場合にはそれを基本金に入れることになつてゐる。かくして又他の貧困な篤行者、精業者は次回の時に選に入るので社員は順次貧乏を脱出し、最後の一人になるまで見逃すことはいないのである。

この報徳金は前述の様に社員がめい／＼分度を立て、餘財を得、勤儉推譲によつて造つた金であるか

- 一、總則 名稱、位置、信條、目的。
- 二、事業 總則中の信條を細かにかく。
- 三、報徳金造成 事業資金の造り方。
- 四、報徳金活用 事業と資金の關係。
- 五、機關 役員、社員、會合等。

これが出きたら本社の認可を得て、市町村役場を通じて内務大臣に認可願を出すのである。(静岡縣は知せばよいことに)

### 報徳金の造成と活用

報徳社の資金は社員の不斷の努力や勤勞の推譲を主とするので、特に外に向つて資金を募集しないことになつてゐる。

これらの報徳金は預け金とし、一部は最も確實な有價證券とか不動産の購入等の資金に投じて社業の基本に供へてゐる。そしてこれを社員共済貸付金や公益低利貸付金に活用するのである。これは報徳事業の重要な事項であつて、これによつて、一、貧困なる善行者、篤行者、精業者に對する助貸二、舊債償還、及土地家屋購入修繕資金。

ら、二宮尊徳翁も

「報徳金は自財にあらず他財にあらず、日月の萬物を生育する如く貧富相潤澤して止むことなし」といはれてゐるのである。

### 報徳社と社會事業組合

報徳社の事業として貧病弱者に對する當面の救済や又教化などがある。社會事業とは根本的にちがつてゐる所がある。普通社會事業は、その資金を一般の寄附に俟つけられども報徳社は獨立自營である。そして報徳社にある組織と信條によつて自發的に經濟生活や精神生活の改善や向上に進むので自己が自己を救済する立場にあるが、社會事業は救ふものと救はれるものとの對立になつてゐるのである。

又資財の積立や貸付の狀況は信用組合に似てゐる所もあるが、信用組合員の利益を計るために集まつたものであるから、相互扶助的で又大資産家に事



業權が集中しない様に出きてゐるけれども、その他の事は普通の營利事業にあまり變らない所が多い。報徳社は社員全部が天地人三才の徳に報ゆる爲に集まつたもので事業も唯、社員各人の利益を計るばかりでなく、社員以外の人にも廣く公益を献げることを目的としてゐるから信用組合と比べて道徳的な色彩を多分に帯びてゐる。しかし日本において最初に(明治七年)出きた掛川信用組合は報徳社の幹部が中心になつて出きたものであつたが、掛川町に報徳社が設立されてから永い歴史を有し、報徳の訓練を経てゐるから、明治の初めにおいても何の困難もなく發達してゐる所を見れば、信用組合と報徳社の融合も難かしいことではない様に思はれる。

#### 四、民衆金融としての貯蓄銀行

貯蓄銀行は  
をどんな仕事  
する所か

次に貯蓄銀行はどんなにして民衆の金融機關として利用されてゐるかに

四〇  
ついて簡單に述べよう。先づ貯蓄銀行の仕事は大體次の様に分れてゐる。

1、金や有價物を預る

イ、金を預ること。  
ロ、有價物を預ること。

2、資金を有利に廻す

イ、金を貸し付けること。  
ロ、有利な證券を買入れること  
ハ、債券地方債又は特殊銀行會社債の割賦販賣をすること

このうちで知つてゐて利用することの多いのは、金を預ることと金を貸しつけることである。

普通貯金

之は一般に最も廣く利用されてゐる貯金で、十銭からは幾らでも預つてよいし、拂戻も自由であるから金銭の出入繁げしい仕事をしてゐるものには便利である。

据置貯金

据置期間は、銀行と特約するのであるが法律の上では五年を越へてはならない事になつてゐる。此の貯金の利子は普通貯金より高率であつて單利計算が普通である。据置期間の途中で掛金が出きなくなり、中途解約したいと思ふ時にはどうする

かといふと、その契約の銀行によつてちがつており一定の手數料を引いた殘額を直ぐ返してくれる所と初めの契約期間がすぎる迄は返さない所とあるから契約前銀行の方によく聞いておかれる方がよい。  
**定期積立金** 之は貯蓄銀行としては重要な仕事であつて貯蓄銀行が將來民衆金融機關として發展してゆくのに非常な大切なもので又貯金する人にも便利な制度といへるだらう。途中で資金が入用な時には大抵の貯蓄銀行は相當の年月を滞りなく掛けてゐる者には契約した年限が來なくとも契約の全額を貸してくれる事になつてゐるから非常に便利である。これは据置貯金と一寸似てゐるが、据置貯金は一回の掛金が最初定まつてゐるのに、定期積立は支拂の金額が一定してゐる。

定期積金	一、四二一	一〇〇
据置貯金	一、一八〇	一一八
	毎月掛金(五年六〇回)給付金額拂戻金額	

定期積立は一度銀行と契約すると毎月集金に來てくれるので、否應なしに拂込まねばならないから知らず／＼の間に貯金が出てゆき、給料生活者には便利である。又毎月僅かの額を拂ふと年を重ねると共に相當の額になるから、負債の返済方法としては最も都合がよい。

資金を融通するには

貯蓄銀行に金を預けてゐる人、即ち御得意が銀行から金を借入れるに次

の三つがある。

1、預金限度内の借入

これは現在高の限度内で貯金證書を見返り擔保として金を借入るのである。

2、小額短期貸付

これは先年の第五十九議會の改正貯蓄銀行法によつて認められたので、二名以上の確實な保證人があり、割賦返済の方法をとる者には千圓以下二年以内の期限で無擔保貸付をする事になつたのである。貯蓄銀行は預金吸集機關としての働らくのみでなく、又民衆金融機關としても新らしく生れた譯である。



### 3、預金以上の借入

之は前に述べた様に定期積立の給付契約金を掛金の済まないうちに借りる方法で、預金者には非常に便利な方法である。

### 貯蓄銀行の美點

貯蓄銀行は中流以下の多數の民衆を保護するために貯蓄銀行法によつて預金者は政府から確實に保護されてゐるから、一家繁榮のために有用な資金をつくる人には利用してよいものである。尙、その外貯蓄銀行は普通銀行とちがつて次の様な美點を持つてゐる。

- 一、取締役は連帯無限の責任をとるから預金者はかなり安心して金を預け入れられる。
- 二、預金の三分の一に相當する擔保を政府に供給してあるから預金は安全である。
- 三、貯蓄銀行の利子には税金がかゝらない。
- 四、集金をしてくれるから知らずくに貯金が出る。

四二  
五、銀行によつては貯金の外に利益配當を割當てられる所もある。

### 五、公益質屋の話

#### 古くから廣く利用されたる金融機關

質屋は民衆金融機關の一つとして古くから廣く利用されてゐるものである。しかしその金融方法は質置主に不利な點も少なくなく、たゞ政府は小額所得階級の生活の實情や、又他の民衆金融機關などを研究してゐたが、昭和二年八月に公益質屋法が施行される事になつて、これまでの營利質屋の外に公益質屋が普及される事になつたのである。東京市設の質屋だけをみても昭和六年度には約二十萬の人々が之を利用してゐる。

#### 公益質屋と利用の仕方

1、質置主 東京市に存在してゐる者で住所氏名のはつき

りしてゐることが必要とされる。

又生業資金としては市内居住の小商工業で商品、製作品を擔保とし、其の貸付金は、生業資金として使用するこゝとが明らかである場合には貸し出されることになつてゐる。

### 2、質物

普通は衣類、裝身具、家具、債券等であるがこの外、保管に差支へのない動産なら入質出さるることになつてゐる。

### 3、貸付金額

貸付は大抵、質物の時價の十分の七以内とされてゐる。金額は次の様に規定されてゐる。

- イ、普通貸付 一口拾圓迄 一世帯 五拾圓迄
- ロ、制限外貸付 特別の事情ある者に限り 一口貳拾圓迄 一世帯 百圓迄

- ハ、生業資金貸付 一口五拾圓迄 一世帯 三百圓迄

### 4、利子

一月に付一分二厘五毛であるが、しかし十六日未滿は半月として計算してゐる。

### 5、流質期限

契約が成立した日から滿四ヶ月の期限であるが、特別の事情のある場合には四ヶ月以内は延長することが出来る。

### 6、流質期限後の質物受戻

普通の營利質屋なら流質期限後の質物受戻しは出きませぬが公益質屋だと、元金及利子を支拂へば受戻しが出きる様になつてゐる。

### 7、流質處分殘餘金の返還

これも公益質屋の特徴である。營利質屋では流質物の處分殘餘金は一切返還しないことになつてゐるが、公益質屋においては、流質物を處分した時には賣却代金から貸付元金利子と處分手數料(賣却代金の五分)をとつた殘餘金は質置者に返還とする事になつてゐる。

#### 二宮尊徳翁金言

物の足らざるは覺悟の足らざるなり

○ 丹精は誰れしらすともおのづから秋のみのりのまさる數々

○ 去年の實は、ことしの種と成りにけり今年の実法、來るとしの種



# 生きがひのある一生

小林 一郎

## 修 養 講 話



根の無い花はいかに美しくても、すぐに凋んでしまふ。土臺のシツカリとして居ない家はいかに立派に見えても、すぐに傾いてしまふ。世の中の事が皆其の通りである。シツカリした覺悟がなくて世の中に立つほど危いことは無い。世の中がいつも無事平穩であれば、身體さへ丈夫なら平氣で毎日を送ることが出来やうが、今日の世の中は決して無事平穩ではない。種々の出来事があり、種々の變化が起つて来る。斯ういふ世の中に立つ人は、浪風の激しい海の中へ船を乗り出したと同様の覺悟をもつて居なければならぬ。此の覺悟の足らぬ人が多いために萬事が面倒になつて来るのである。

近來吾等の生活は著しく華やかになつて來た。街を歩いて見ると、電氣燈

心の持方を立て直せ

の光りは晝のやうに明るい、電車や自動車のスピードは驚くほど速くなつて來て居る。併しながら行き逢ふ人の顔つきを見ると、満足とか幸福とかいふ様子は殆んど無く、不平不満の色が多くの人々の顔にたゞようて居る。又近頃では衛生上の智識が次第に普及して、健康を保つために種々のことが教へられて居るにも係はらず、日本人全體の平均の壽命は少しづつ短くなつて行くのである。此等の事實を見ると、吾等の心の持ち方を立て直すことが何よりも大切であるといふことを痛感せざるを得ぬ。吾が國では徳川時代の始めから世界各國との交通を止めて、凡そ二百年ばかり世界の形勢などは全く知らずに暮して來たところが、徳川時代の末に至つてアメリカから勧められて、世界との交際を始めることになつた。さて交際を始めて見ると一から十までピツクリする事のみであつた。世界各國は既に六百年來激しい競争を續けて互ひに他の國に負けてはならぬといふ考へで勵みに勵んで來たのであるから、學問でも技藝でも目覺しい進歩を示して居る。そこへ日本人がノソリと出て行つて仲間入りをしたのであるから、見るもの聞くもの一として新奇ならぬものは無



く、唯だ驚いてしまつたのである。

勿論西洋諸國にも種々の缺點があつて吾等の手本とはならぬやうな事も多いのであるが、其の頃には其等の見分けをつける隙もなく、萬事萬端西洋人の眞似さへすれば宜いといふ有様であつた。ところが西洋の學問とか技藝とかいふものが一朝一夕に出來たのではなく、六百年もかゝつて發達したものであるから、其等を盡く短い歲月の間に眞似られやう筈がない。そこで其の表面にあらはれた所のみを眞似て、其の精神を學ぶといふことは出來なかつた。例へば吾等は西洋人の眞似をして電氣燈をつけ始めて、今日では如何なる山間でも晝のやうに明るくなつて居る。然るに西洋人が電氣の力によつて室の中を明るく照すことを思ひ立つて、之を完成するまでの苦心努力といふものは非常なものであつた。多くの學者は其の發明のために苦心をして、之がため重い病にかゝつた。多くの技師や職工は其の實驗を積む間に怪俄をして不具の身となつた。多くの資本家は之が完成に力を盡して貧しい身の上となつた。斯る多くの犠牲を拂つて、やうやく電氣燈といふものが完成したの

である。獨り電氣燈のみではない、萬事が此の通りである。苦心努力を重ねずして成功したことは一つも無い。然るに吾が國に於ては急いで西洋人の眞似をして今日に及んだのであるから、其等の苦心努力を學ぼうといふ心懸けの人が少く、唯だ幸運に乗じて成功した人のみが羨まれるといふ有様である。その爲に萬事が甚だ不堅實である。斯ういふ有様では將來世界各國と對立して、劇烈なる競争を續けて行くことが出來やうか、甚だ以て心許ない次第と思はれる。

今日のところでは幸運に乗じて成功した人のみが羨まれて居るのであるが、これは甚しき考へ違ひであらう。例へば小學校の教員から身を起して大臣となつた人がある。それは其の人自身も無論非凡な人ではあつたのであらうが、運の好かつたことは確かである。それを日本中の小學校の先生が羨んで、自分達も大臣になりたといふことばかり考へ、兒童の教育に不熱心になるならば、日本の國民教育といふものは根柢から破壊されてしまふ。又小い魚屋の主人から身を起して御用商人となり、今日では數千萬の資産を積んで居る人もある。此の人も無論非凡な人ではあ



## 各個人の

るが、日清戦争や日露戦争があつた爲に其の成功も見られたのであつて、矢張り幸運に乗じて成功したものには相違ない。斯ういふ人を羨んで、日本中の魚屋の主人が皆其の商賣に不熱心になつては甚だ困ることである。國家の繁昌といふものは、決して所謂成功者の力のみには依るものでないといふことを各自に充分考へて居なければならぬ。たとへば世間の人の眼につかぬやうな微かな仕事をして居る人でも、其の毎日の仕事に魂を打込んで働いて居るならば、確かに國家のためになつて居る。又一人の人として立派なものであるといふことの自信をもつて宜いのである。今から段々と春につて、凡ての木の葉が青々と茂つて來るのであるが、此等の木の葉はどうして茂るのであるか。それは其の木の根が土の中から養分を吸収して、その養分を其の木の幹を通じて枝の末まで送るので、葉が青々と茂るのである。此の葉を一枚や二枚むしつて取つても此の木の全體には何の影響もないけれども、此の葉を一枚づゝむしり取つて、残らず取つてしまへば、此の木は必ず枯れてしまふ。葉といふものは木が生存するために缺くべからざるものであつて、決して單なる飾

りではない。葉は皆空中から窒素を吸収して、之を枝と幹とを通じて其の根へ送るのである。それが養分となつて幹も太くなり、根も延びて行くのである。木の葉は決して其の根に養はれて居るのみではない。自ら空中から養分を取つて幹を養ひ根を養つて居るのである。根がありさへすれば葉はどうでも宜いと考へてはならぬ。一枚一枚の木の葉は皆此の木の生存のために缺くべからざる務めを盡して居るのであつて、それづくに皆貴むべく重んずべきものである。吾等各個人と國家との關係も亦此の通りである。吾等は國家が繁昌して居るために、國家の力に護られて毎日安全に送つて居るのであるが、國家はまた吾等の力を集めて繁昌して居るのである。各個人が其の毎日の仕事を怠つて居るならば、國家は必ず滅亡しなければならぬものである。

## 國民は國

殊に吾が國に於ては建國以來尊ひ皇室を上戴き、國民が皆一致協力して二千數百年の美しい歴史を成し來つたので、此の關係は今後も永遠に變るべきものではない、されば古代の日本語では、天皇が國民一般の者を「おほみたから」と呼ばせら



れたのである。「おみはたから」とは大なる御寶であるといふ意である。或は田を耕し、或は布を織り、或は網を曳いて魚を取り、或は其等の物を全國へ運び、或は之を海外へまでも輸出する。此等の事に力を盡す人は皆此の國の寶であるから、天皇より之を「おほみたから」と仰せられたのである。世界の何れの國の國語に於ても、君主よりして其の國民を寶と呼ばれた例はない。吾等は此の日本の國民として生れたことに特別の悦びを感じなければならぬ。明治天皇の御製には、

おのがじ、力を盡し世を富ます民こそ國のたからなりけれ

と申すのがある。「おのがじ」とは各自の分に應じてといふ意である。此の御製は國民を「おほみたから」と呼ばせらるゝ歴代の天皇の御心を現はされたものであつて、吾等の特に感激すべき所である。

殊更近頃になつて世界各国が日本に對して種々の壓迫を加へ、極めて横暴な態度を取つて來たことに注意しなければならぬ。世界各国が何も吾が日本に對して恨みを懷いて居るわけでは無いが、斯ういふ形勢になつて來たのはまことに餘儀ないこ

世界の眼  
は東洋に

とである。彼の歐洲大戰亂以後歐洲各國は不景氣續きで全く行き詰りの有様である。米國は世界第一の富強な國になつたといふものゝ、其の人口は一億三千萬ばかりであるから、國內だけを相手として多くの事業を經營することは出來ぬ。どうして歐洲に於ける四億以上の人々を相手とするより外はない。然るに歐洲が行き詰りとなつて、凡ての品物の需要が減つて來れば、米國の事業も衰微しなければならぬわけである。斯くして米國も亦不景氣の渦中に巻き込まれてしまふ、所謂世界的不景氣といふものが幾年ともなく續くのである。此の行き詰りの中を脱出するため、何れの國でも東洋へ向つて進出することを計畫し、之に殆んど全力を注いで居る。

日本と歐  
米諸國

東洋に於ては支那一國でも四億以上の人口がある。印度一國でも三億數千萬の人口がある。その他の國々を併せて、總計九億以上の人口を有して居るのであるから此の廣大なる天地に於て充分に活動して、大なる利益を收め、之を以て今の行き詰りを打開しようといふのが歐米諸國民の方針である。然るに東洋に於て彼等と對抗



すべき國は吾が日本一國のみである。されば彼等が東洋へ發展して來る時は、どうしても日本と利害關係の衝突を免れぬのである。それで今迄にも日本の勢力を抑へるために、種々のことが計畫されて居たのであるが、最近に至つて愈々露骨になり、終に國際聯盟に於ける極めて不合理なる決議ともなつたわけである。斯うなれば吾が日本は世界を相手にして立つといふ決心を固めるより外はないのである。

世界を相手にするといつても輕々しく戦争などの開かれるわけは無い。先づ以て經濟上の競争が劇烈になり、日本が經濟上に於て種々の壓迫を受けることを覺悟しなければならぬのである。此の際に於て最も肝要なのは、日本國民が此の國の實力を養ふことに其の力を集中せしむることである。有らゆる艱苦に堪へ、有らゆる困難を冒し、各自に其の心の力と身體の力とを其の毎日の仕事に打込んで、働くといふこと以外に此の難局に處する方法はない。此の大切なことの爲に力を盡す人は、何れも此の國の土臺を固めるために役に立つ人である。吾等の生命には限りがあつて、如何に丈夫な人でも、百歳を超ゆるものは至て稀である。併し自分の仕事の爲

實力を養  
當れ  
國難に

に盡したる力は、いつ迄も決して亡びるものではない。一枚一枚の木の葉が空中から養分を取つた爲に、木の幹も太り根も延びて何百年も枯れぬと同じやうに、此の國が吾等の力を集めて永久に榮えて行くならば、吾等の身體は死んでも吾等の力は消えもせず亡びもせず、此の國と共に永く存するのである。各自に此の點に眼を着けなければならぬ。

自分は何の爲に生きて居るのか、自分は何の爲に働いて居るのか。それがハツキリと分つて居ないから、少しく困難なことに逢ふと忽ち勇氣を失つてしまひ、一生涯を無意味に過してしまふやうになるのである。今日に於て最も必要なのは此の自覺を得ることである。吾等は吾等の毎日の仕事に深き意義を認め、雨の中をも雪の中をも暴風の中をも、いつも力強く朗らかなる氣分を以て通りぬけて行かなければならぬ。



編輯後記

◎此の二三百年間に於ける文明の進歩は、實に驚くの外はないが、これは何と言つても少數の天才が、堅忍持久、身を殺して發明發見に努めた結果である。而して我日本人の力は極めて僅かしかこれにあづかつてるない。

此の僅かのうちから特に傑出した人々を選び出して紹介したのが、本號巻頭の日本發明物語りである。勞務者が仕事に従事しつゝ、いろいろ傑出した工夫をされた實例も、お

つて發表したいと思つてゐる。

◎せち辛い世の中で、簡易に金が借りられる方法として、どんなものがあるか。本號所載のもの以外にも非常に結構なのがあるかも知れない。お氣付の方は教へて下さい。

◎中央大學教授小林一郎先生から修養講話をいただいた。熟讀精讀、三思せられんことを望む。

◎寒い長い冬も漸く終りに近づいた。やがて春がやつて来る。しかし軍國の春はいたづらに花に浮かれて居るべきでない。諸君しつかり！

○日本勞務者教育協會規程（抄）

- 第二章 目的及事業
- 第三條 本協會ハ勞務者教育施設相互ノ連絡提携ニ依リ其ノ振興ヲ圖リ勞務者ノ教養ヲ高ムルヲ以テ目的トス
- 第四條 本協會ハ前條ノ目的ヲ達スルタメ左ノ事業ヲ行フ
- 一、輔導學校、講習會、講演會、協議會等ノ開催
- 一、勞務者講座、圖書、雜誌會報等ノ刊行
- 一、勞務者教育ノ調査研究
- 一、其他必要ト認ムル事項
- 第三章 役員及職員
- 第五條 本協會ニ左ノ役員ヲ置ク
- 理事 若干名 監事 若干名 常議員 若干名 評議員 若干名
- 第六條 理事中一名ヲ理事長、二名ヲ常務理事トス
- 第十二條 本協會ニ顧問若干名ヲ置ク
- 第十三條 本協會ニ相談役若干名ヲ置ク
- 第四章 會員
- 第十五條 本協會ハ左記ノ會員ヲ以テ組織ス
- 一、正會員 本協會ノ趣旨ニ賛同スル勞務者
- 甲 年額金貳拾錢ヲ納ムル
- 乙 同 金七十錢 同（日本勞務者並勞務者講座配布）
- 丙 同 金壹圓八拾錢（同 日本勞務者並雜誌「アカツキ」配布）
- 一、贊助會員 本協會ノ事業ヲ贊助スル者
- 年額 金拾圓也ヲ納ムル者（日本勞務者、勞務者講座、並雜誌「アカツキ」其他調査資料等ヲ數部ゾ、配布）
- 一、名譽會員 本協會ニ特別ノ功勞アル者（同數部ゾ、配布）
- 第六章 支部
- 第十八條 會員五十名以上ヲ有スル地方若ハ會社、工場、礦山、等ニ於テハ支部ヲ設置スルコトヲ得
- 第十九條 各支部ニ支部長ヲ置ク
- 支部長ハ理事長之ヲ委嘱ス
- セ、會員募集、會費ノ徵集、打合せ、他本部トノ聯絡上必要ナル一切ノ事務ヲ處理スルモノトス
- 第二十一條 同一道府縣内ニ於テ支部ハ支部聯合ヲ設置スルコトヲ得

協會役員（イロハ順）

顧問	嶋山一
相 助	山本達
理事長	中島久萬
常務理事	佐野善吉
理事	國屋龍吉
常務理事	春山作樹
理事	丹羽七郎
常務理事	川田順
理事	吉田茂
常務理事	松本學
理事	船田一
常務理事	菅禮之助
理事	内藤久寛
常務理事	小尾範治
理事	津田秀榮
常務理事	氏家貞一郎
理事	松尾長造
常務理事	平澤幹
理事	中込本治郎

本協會乙會員には一ケ年會費金七十錢で本講座と「日本勞務者」とを配付いたします。なるべく多數まとめて御送り出来るやうにして下さい。

昭和八年三月十五日印刷  
昭和八年三月十五日發行

【定價金五錢】

文部省構内  
日本勞務者教育協會

編輯兼 發行人 中込本治郎

東京市牛込區早稻田鶴卷町百七

印刷者 吉原良三

東京市牛込區早稻田鶴卷町百七

印刷所 株式會社 康文社印刷所

東京市麹町區文部省社會教育局内

發行所 日本勞務者教育協會

電話 丸ノ内三三、内線二六  
振替 東京六二二九六番



編輯後記

◎此の二三百間に於ける文明の進歩は、實に驚くの外はないが、これは何と言つても少数の天才が、堅忍持久、身を殺して發明發見に努めた結果である。而して我日本人の力は極めて僅かしかこれにあづかつてゐない。

此の僅かのうちから特に傑出した人々を選び出して紹介したが、本號巻頭の日本發明物語りである。

勞務者が仕事に従事しつつ、いろいろ傑出した工夫をされた實例も、お

つて發表したいと思つてゐる。

◎せも辛い世の中で、簡易に金が借りられる方法として、どんなものがあるか。本號所載のもの以外にも非常に結構なものが有るかも知れない。お氣付の方は教へて下さい。

◎中央大學教授小林一郎先生から修養講話をいただいた。熟讀精讀、三思せられんことを望む。

◎寒い長い冬も漸く終りに近づいた。やがて春がやつて来る。しかし軍國の春はいたづらに花に浮かれて居るべきでない。諸君しつかり！

◎日本勞務者教育協會規程（抄）

- 第二章 目的及事業
- 第三條 本協會ハ勞務者教育施設相互ノ連絡提携ニ依リ其ノ振興ヲ圖リ勞務者ノ教養ヲ高ムルヲ以テ目的トス
- 第四條 本協會ハ前條ノ目的ヲ達スルタメ左ノ事業ヲ行フ
- 一、輔導學級、講習會、講演會、協議會等ノ開催
  - 一、勞務者講座、圖書、雜誌會報等ノ刊行
  - 一、勞務者教育ノ調査研究
  - 一、其他必要ト認ムル事項
- 第三章 役員及職員
- 第五條 本協會ニ左ノ役員ヲ置ク
- 理事 若干名
  - 監事 若干名
  - 常議員 若干名
  - 評議員 若干名
  - 理事中一名ヲ理事長、二名ヲ常務理事トス
- 第六條 本協會ニ顧問若干名ヲ置ク
- 第十三條 本協會ニ相談役若干名ヲ置ク
- 第四章 會 員
- 第十五條 本協會ハ左記ノ會員ヲ以テ組織ス
- 一、正會員 本協會ノ趣旨ニ賛同スル勞務者
  - 甲 年額金貳拾錢ヲ納ムル
- 者（日本勞務者ノミ配布）
- 乙 同 金七十錢 同（日本勞務者並勞務者講座配布）
  - 丙 同 金壹圓八拾錢 同（日本勞務者並雜誌「アカツキ」配布）
- 一、贊助會員 本協會ノ事業ヲ贊助スル者
- 年額 金拾圓也ヲ納ムル者（日本勞務者、勞務者講座、並雜誌「アカツキ」其他調査資料等ヲ數部ゾ、配布）
- 一、名譽會員 本協會ニ特別ノ功勞アル者（同數部ゾ、配布）
- 第六章 支 部
- 第十八條 會員五十名以上ヲ有スル地方若ハ會社、工場、鑛山、等ニ於テハ支部ヲ設置スルコトヲ得
- 第十九條 各支部ニ支部長ヲ置ク
- 第二十條 支部長ハ理事長之ヲ委嘱ス
- 七、會員募集、會費ノ徵集其ノ他本部トシテ必要ナル一切ノ事務ヲ處理スルモノトス
- 第二十一條 同一道府縣内ニ於テ支部ハ支部聯合ヲ設置スルコトヲ得

協會役員（イロハ順）

顧問	嶋山一郎
相談役	山本達雄
理事長	中島久萬吉
常務理事	佐野善作
理事	關屋龍吉
理事	春山作樹
理事	丹羽七郎
理事	川田順
理事	吉田茂
理事	松本學
理事	船田一雄
理事	菅禮之助
理事	内藤久寛
理事	小尾範治
理事	津田秀榮
理事	氏家貞一郎
理事	松尾長造
理事	平澤幹
理事	中込本治郎

本協會乙會員には一ヶ年會費金七十錢で本講座と「日本勞務者」とを配付いたします。なるべく多數まとめて御送り出来るやうにして下さい。

【定價金五錢】

昭和八年三月十三日印刷  
昭和八年三月十五日發行

文部省構内  
日本勞務者教育協會

編輯兼 發行人 中込本治郎

東京市牛込區早稻田鶴卷町百七  
印刷者 吉原良三

東京市牛込區早稻田鶴卷町百七  
印刷所 株式會社 康文社印刷所

東京市麹町區文部省社會教育局内  
發行所 日本勞務者教育協會

電話九ノ内三三、内線二六  
振替東京六二二九六番



終

昭和七年十月二十六日 第三種郵便物認可  
昭和八年三月十三日印刷納本(毎月一回)  
昭和八年三月十五日發行

協 會 の 徽 章



弊 商 會 謹 製

自 力 更 生 麥 片  
特 價 一 個 金 十 二 錢



早 起 麥 片



禁 酒 麥 片



禁 酒 煙 麥 片



特 價 十 五 錢

東 京 市 九 段 下  
ア キ バ 徽 章 商 會

電 話 九 段 } 二 三 六 五 一 番  
振 替 東 京 三 三 一 一 三 番

4